

営業スキル向上勉強会(#19)

2017年3月9日

書籍タイトル :大切なことは、「好き嫌い」で決めろ！

今回この本を読んだ目的、きっかけ：

『大切なことは「好き嫌い」で決めろ！』というタイトルを見て、大切・重要なことなのに、本当に「好き嫌い」で決めてしまっているのだろうか、と思い、中身にどんなことが書かれているのか気になったため、選んだ。

また、「好き嫌い」すなわち「直感」を信じることでどう人生を好転させられるのか知りたいから。

概要：

決断する前にもう決まっている。

好きな相手から届いたメールは、内容を吟味する前からすでに引き受けると決めている。

嫌いな相手から届いたメールは、その逆だ。

初めてメールをくれた相手で、水のごとくさっぱりして感じの文面は即 OK だ。

甘酒のごとくネトネトと感じの悪い文面は即 NO だ。

偉い人の中には「嫌いな相手からこそ学ぶことは多い」と説く先生もいるが、それよりも限られた人生の時間は好きな相手から学ぶことに割きたい。

「好きな人と好きなことばかりやっていると罰が当たるよ」とアドバイスしてくれる人もいるが、それは嫌いな人と嫌いなことばかりやっている人が嫉妬しているだけだ。

少なくとも、著者の周囲の**長期的な成功者たちは、好きな人と好きなことばかりやっている**。著者も**その真似をするようになってから、毎年、複利がついて幸運が舞い込み続けている**。この著書を読むことで、明るい未来をつかんでいけるかもしれない。

参考にしたい点、気になる点

1. 「桁違い」の結果を出している人は、面白い仕事のやり方をしている人が多い。」

もし、自分の周りに長期間にわたってダントツの成績を残している社員がいたら、1度、よく観察してみよう。

きっと彼は、社内でダントツの努力家ではないはずだ。もし彼がダントツの努力家であれば、真似をすべきではない。少なくとも過労死したくなければ。

著者はサラリーマン時代によく自社でダントツの社員はもちろんのこと、他社でダントツの社員観察もよくしたという。

その際に著者が注意したのは「足し算型の努力家」は対象から外したということだ。

足し算型の努力家がいい成績を得る理由は簡単で、単に人より多く働いたから。著者が強烈な関心を持ったのは、努力家ではなく、工夫を凝らしている人たちだった。工夫を凝らす人は、揃いも揃って、とても面白い仕事の仕方をしているからだ。彼らの仕事のやり方の共通点は、いつも“桁違い”を目指していることだ。

“桁違い”と聞くと、すぐに長時間働くことを連想する人がいるが、そうではない。むしろ、長時間働くことの対極だ。

いかにして、10分の1の労力で周囲と同じ成績を残せるか。

いかにして、周囲の10倍の成績を残せるか。

いかにして、10倍のスピードで仕事を片付けるか。

このように、あえて“桁違い”の目標を掲げていると、どんな凡人でも根本的に、発想が変わってくるのだ。

例えば、コンサルの仕事を例に出すと、

二流のコンサルタントたちはすぐに“売上1.5倍”とか“昨年比110%”といった現実的な提案をして、それさえ達成できずに顧問先をクビになっていた。

一流のコンサルタントは“売上10倍”や“昨年比1000%”になる方法を真剣に考え抜いていたため、仮に売上1.5倍や昨年比110%で終わっても、顧客からベタ惚れされていた。

2. 「好きなことで成功してもまだ没頭し続ける男に、いい女は吸い寄せられる。」

いい男とは、自分の仕事に忠実な人間のことだ。

あのゴルゴ13も「仕事に忠実な男は信頼できる」と言っている。

男にとって仕事は人生であり、人生は仕事なのだ。石器時代には、獲物をろくに獲得できなかった男は、女に相手にされなかったはずだ。

現在もそれは同じで、仕事ができない男はまともな女からは相手にされない。

とりわけ自分の好きなことで成功して、それでもまだ仕事に没頭し続ける男に、いい女は吸い寄せられるのだ。女性は本気でいい男をゲットしたければ、その男性がどんな姿勢を持って仕事をしているかで判断することだ。いくら真面目に長時間労働していても、その仕事に向かずに空回りしていれば、いつまでたっても、うだつの上がないダメ男で終わってしまう。あるいはいくらカッコいい仕事をしていても、その仕事が大嫌いであれば、いずれ心身に異常をきたすから早死にするだろう。

繰り返すようだが、いい男というのは自分の好きなことで、かつ評価されることを、自分の仕事にしているものだ。

そうするとほぼ確実に成功するから、経済的にも豊かになるわけだが、いい男はそこからさらに、自分を成長させるため、仕事を続けるのだ。

お金を稼ぐためだけに仕事をしているわけではなく、自分が成長する手段として、仕事をしているのだ。仕事をとことん敬い、仕事を通して人生を味わっているのだ。仕

事に忠実でない男は、他の全てがいくら優れていても、信頼するに値しないのだ。

3. 「責任感を育てるためには、好き嫌いで生きること。」

子どもの責任感を育てなければ、好き嫌いで決めさせることだ。

好き嫌いで決めるということは、失敗を人のせいに出来ないということだ。

これ以上に責任感を育てる方法はない。

著者は物心ついてから、ずっと好き嫌いで生きてきた。例えば、高校や大学を選択する際、周囲の大人たちから猛反対されたが、全て著者の好き嫌いで選んだそう。もちろん、大人たちのアドバイスは今振り返っても大抵が正しかったのだが、その時に、著者の好き嫌いで選んでいなかったら、著者は今のような満足できる人生を歩んでいなかっただろう。

これはサラリーマン時代も同様で、周囲から「えー!？」と言われる方をやると、あらかじめ決めていたそう。その時に、「えー!？」と言われる方を選んでいなかったら、著者は今のような結果を出し続ける人生を歩んでいなかったに違いないと断言している。

さらに、現在の執筆活動についても基本的な姿勢は同じだ。著者はこれらの原稿を全部好き放題書いているし、決断を迫られたら、いつも100%、好き嫌いで決めていく。出版社に受理されるか否かは別として、意見を求められたら自分の好き嫌いをはっきりと伝えている。ちなみに著者はこれまで120冊超の本を出してきたが、その中で1番売れた本も、2番目に売れた本も、全て出版社の意見をねじ伏せて著者の好き嫌いを貫いた作品ばかりだそう。

なぜ、その時は出版社の意見をねじ伏せたかと言えば、その年、その瞬間は著者が業界に狼煙を上げるべき時だと知っていたからだ。そして、そのあとにも先にも、自分の好き嫌いを押しつけたことは1度もないそう。

ここで重要なのが、好き嫌いを相手に押し付けるのは、「ここ1番の勝負時」だけにしておいた方がいいということだ。

だが、いったん相手の方から意見を求められた場合には、自分の責任で、覚悟を決めて、好き嫌いをもとに即決することだ。

感想

何かの選択の場面に直面した時、後で後悔するくらいなら好き嫌いで選んだ方がいいということがこの著書を読んでよく分かった。

具体的に、(p.216)「すべてを好き嫌いで決めると毎日熟睡できる」だ。

何故熟睡できるのか、詳しい内容は実際に読んでもらう必要があるが、簡単に言うと、好き嫌いで決めると納得感があるからだ。

好き放題に人生を生きようが我慢して人生を生きようが、どちらにしても周囲に迷惑をか

けないで生きることなどできないのだ。それどころか我慢して人生を生きるとどこかで我慢できなくなり道を踏み外すことすらあり得る。

好き嫌いで淡々と生きるのは、自然の摂理に従った生き方だから、自ずと全てがうまくいくということだ。

もちろん、立場などで、嫌いでも好きと言ったり、好き嫌いを曖昧にしなければならないこともあるだろうが、そのような場面に遭遇しない限り、なるべく好き嫌いを曖昧にせず、しっかりと貫くことで、人生を楽しく、生きていきたい。